



272号
2022/4

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



牧場の姉妹：内モンゴルのシリンホト空港に着くと、モンゴル帽のようなドーム型の空港ビルだった。とても簡素で売店も無し。そこから草原の道をマイクロバスで移動すること4時間。お世話になる草原の家に着いた。なだらかな丘陵が地の果てまで連なる景色。牧場の家の子供は元気に遊んでいた。

(内蒙古、シリンホト近郊で 2008年6月 撮影：佐々木健之)

'わんりい' 2022年4月号の目次は20ページにあります

qián lú jì qióng けんろ
黔 驴 技 穷 (黔驢の技)

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から

文と訳・有為ういくす楠君代

月の言葉、「四字成語辞典」に見当たりませんが、「新漢語林」に「黔驢の技」と載っていました。

➤・➤・➤・➤・➤・➤・

昔、貴州省にはロバはいませんでした。ある時、貴州の人が、外地からロバを一頭買って連れて帰りました。その人はロバを林の中へ連れて行き、そこに囲いを作って放し飼いにしました。

数日後、一匹のトラが獲物を求めて林へやってきました。トラはこのロバを見ると、今まで見たこともない動物なので、そっと近づいてよくよく観察しました。ロバは、トラを見ると危険を感じて、喉が張り裂けんばかりにいなないたので、トラはびっくりして逃げていきました。

しかし、トラは諦めませんでした。勇気を出して再びロバの処へ出かけて行き、更に良く観察しました。ロバは怖ろしくなって、後足でトラを蹴り始めましたが、トラは機敏に身をかわすので上手く蹴ることが出来ません。そんなことが何回かあってからトラは言いました。「そうか！ わかったぞ。お前は後ろ足で蹴ることしかできないんだな。もう怖くはないぞ」というが早いか、ロバの前方から跳びかかり、地面に引き倒して食べてしまいました。

➤・➤・➤・➤・➤・➤・

言葉の意味：貴州のロバは技が少ない。手持ちの技が少ないので、直ぐお手上げになる。相手をけなす言葉。

使用例：中国武術の試合で、彼は初めのうちは体力のお陰で優勢だったが、間もなく貴州のロバで技が少ないので、散々に打たれて惨敗した。

➤・➤・➤・➤・➤・➤・

この言葉、筆者手持ちの日本語の「四字成語辞典」3冊には載っていませんが、中国の幼児向け「四字成語絵本」3冊には載っていました。中国ではかなり頻出する言葉なのでしょうか。確かにこの言葉、簡潔な日本語に置き替えるのは難しいですね。僅かに「新漢語林」の「黔驢の技」を見つけただけでした。

ご紹介しているこの本は一話当たりのスペース

が少なく、上記のようにしか書いてありませんでしたが、他の幼児向け絵本を見ると、「貴州のトラはロバを初めて見て、大きいのに驚きました。近づいてみると、大きな声で嘶くので更にびっくり。後ろから近づくと、後ろ足で蹴られそうになりました。それでもなお観察すると、ロバには



挿絵：満柏画伯

それ以上敵を防ぐ技がないことが分かったので、トラは安心して襲って食べてしまいました」と書いてありました。

言葉の意味としては、「手持ちの僅かな技を使い果たし、身動きが取れなくなる」とか「技を出し尽くした後何も出来ず恥をかく」とか、良くない状況に使うようです。「新漢語林」の「黔驢の技」も出典が同じで、「腕前が拙劣なのを恥じる言葉」、「技術が拙劣なたとえ」と出ていました。因みに、「広辞苑」には『黔＝①黄黒色。浅黒。「黔首」「黔黎」②貴州省の別称。』と載っていましたが、「黔驢」に関しての記載はありませんでした。

実は、このお話、中唐の政治家で詩や文章の大家（「唐宋八大家」の一人）、柳宗元りゅうそうげんの寓話集に出てくるのです。多芸多才な柳宗元が言ったのだと知ると、なんだかにわか、言葉に真実味が感じられるようになって来ました。

李商隱の七言絶句「夜雨北に寄す」

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

李商隱(813~858?)、字は義山、晩唐期を代表する詩人の一人です。同時代の詩人で10歳年長の杜牧が後世、小杜(小杜甫)と称されるのに対して、小李(小李白)と呼ばれて親しまれています。

幼くして父親を失い、困窮の中を苦学して科挙に及第。律儀で生真面目な性格に加えて、持ち前の適応能力を発揮して多方面から重宝がられますが、それが却ってアダとなり、晩唐期の熾烈な権力闘争の板挟みとなって、双方から変節者として煙たがられ、地方勤務を強いられたあげく、官僚としては不遇のうちに生涯を終えました。

一方、詩人としては繊細でかつ艶麗な、晩唐期独自の詩風を確立しました。今回取り上げる七言絶句もその例に漏れない名作の一つです。

なおこの作品は『唐詩三百首』にも採録されているので、中国では多くの小中学生達が暗記しています。

[原詩]

yè yǔ jì běi
夜雨寄北

lǐ shāng yīn
李商隱

jūn wèn guī qī wèi yǒu qī
君问归期未有期

bā shān yè yǔ zhāng qiū chí
巴山夜雨涨秋池

hé dāng gòng jiǎn xī chuāng zhú
何当共剪西窗烛

què huà bā shān yè yǔ shí
却话巴山夜雨时

* 帰期=帰る予定。* 未有期=まだ予定が立たない。* 巴山=今の重慶北部の山々を指す。* 漲=水位が上がる。いっぱいになる。* 何當=いつかきっと~ * 剪~燭=灯芯の燃えカスを切り捨てて灯火を掻き立てる。夜更かしをすること。* 西窗=西側の窓辺。「西窗」は女性の寝室を暗示する言葉。* 却=却って~。一転して~。状況や気分の変化を導く副詞。強調の意を含むこともある。* 話=話す。語る。

[訓読]

きみ きき と いま あ
君帰期を問うも未だ期有らず

はざん やうしゅうち みなぎ
巴山の夜雨秋池に漲る

いつ まさ とも せいそう しょく き
何か当に共に西窓の燭を剪り

かえ はざん やう とき かた
却って巴山の夜雨の時を語るべき

東川節度使の幕僚として巴山の地に派遣されていた頃、都長安に残した妻から、いつになったら帰京できるのかと手紙で問われ、その返信として贈った詩とみられています。「寄北」の「北」は巴山の北に位置する長安を指すとされています。なお、テキストによっては「寄内」となっているのもあります。この場合「内」は「妻」を表します。「何当~」以下の三、四句目は「いつかきっと二人で夜更かししながら、雨の巴山の夜に君からの便りを読む、この巴山の夜の寂しい気持ちを共有できる日が来るといいね」という意味です。やや屈折した表現ですが、再会を切望する作者の気持ちがじんわりと読者の心に沁み込んできます。

こういう表現は漢詩には珍しく、却って現代的なセンスを感じさせます。

また、絶句や律詩など字数の限られた定型詩では、一部の慣用的な表現を除き、冗長さを避けるため同一文字の重用や、同一文句の繰り返しは避けるのが通例ですが、この詩では一句目で「期」の字が二回使われ、二、四句目に至っては「巴山夜雨」の四字が二回繰り返しされ、これが却って独特のリズム感を醸し出しています。

[和訳]

きみ と あ
君問えど晴れて逢う日の当てもなく

よ はざん あめ
秋の夜の巴山の池に雨降りそそぐ

あかり
いつかまた灯火掻き立て語らわん

はざん あまよ
君思う時の巴山の雨夜の心

張養浩の散曲〈山坡羊〉『潼関懐古』

報告:寺西俊英

一般に中国の伝統詩歌のことを、それぞれ最も流行した時代とジャンルに分けて〈唐詩〉〈宋詞〉〈元曲〉(略して詩詞曲)等と言いますが、このうち〈元曲〉は元代を代表する芸能ジャンルで、歌劇を中心とした〈雜劇〉と、歌謡を中心とした〈散曲〉に分かれます。今回は元代(1279年～1368年)に始まり明・清三代にわたって流行した歌謡ジャンル〈散曲〉の一つ『潼関懐古』について解説して頂きました。

〈散曲〉は漢詩の会で初めて扱うジャンルだったので、まずその解説から始まりました。これは宋代の〈詞〉と同じく多様な楽曲に合わせて作詞されたもので、楽器の伴奏のもとで歌われました。山坡羊というのは曲牌(宋代の詞牌と同じく楽曲の名称)のことで、作品の内容とは関係ありません。『潼関懐古』は歌詞の題名で、〈詞〉の場合と同様、省略してもいいのですが、作詞者が自分の感慨を要約する形で付加したものだそうです。潼関とは、黄河と渭水の合流点あたりにある関所(現在の陝西省渭南市潼関県)のことです。関中(漢代・唐代の都周辺)を守る函谷関のあった地点とほぼ重なります。山坡羊『潼関懐古』は、作者が関中の飢饉を救済するため潼関の地を通過した折、



潼関古城(筆尖旅游より)

秦代や漢代の栄枯盛衰を懐古した作品です。

〈散曲〉には大別して短い曲である「小令」と組曲的な「套数」があります。前者は日本でいえば小唄や端唄のようなもので、後者は当時行われた雑劇(元の時代の歌劇)の歌詞部分と性質を同じくし、日本の浄瑠璃や長唄のように物語性があります。植田先生は「日本では小唄や長唄のような音曲から文学が派生する例は殆ど見られませんが、中国詩の世界では、もともと音曲の歌詞に始まり、楽曲の部分が廃れたあとも歌詞と作法だけが残り、その作法を頼りに作詞が行われ、それが定型詩の一ジャンルとして定着するというパターンがありました。さらにこのパターンを利用して大量の定型詩が生まれました。〈宋詞〉はその代表的な例ですが、この例は〈散曲〉にも当てはまります。これには西方伝来の音楽文化と宋元時代の庶民文化の融合という現象が底流にあったと言えますね」と。

ただ〈散曲〉は、〈詞〉のように後世まで大流行することはなく、明代以降、楽曲が失われるにつれて次第に衰え、清代中期以降は廃れて行きました。

作者の張養浩(1270年～1329年)は今の山東省済南市の生まれで、元代を代表する優れた官僚であり、儒学者でした。元朝の初代皇帝のフビライ(1215年～1294年)に重用された数少ない漢民族官僚の一人だったそうです。正義感の強い人物で、1329年の関中の大飢饉の際には私財を投げ打って飢民の救恤に尽力した結果、大いに民衆の信望を博しましたが、しかしその過労がたたって発病し、同年逝去したのです。関中の民衆は父母を失ったように悲しんだと伝えられています。

では早速内容を見て行きましょう。

shān pō yáng tóng guān huái gǔ
山坡羊・潼关怀古

zhāng yǎng hào
张养浩

fēng luán rú jù bō tāo rú nù
峰峦如聚，波涛如怒

shān hé biǎo lǐ tóng guān lù
山河表里潼关路

wàng xī dū yì chóu chú
望西都，意踌躇

shāng xīn qín hàn jīng xíng chù
伤心秦汉经行处

gōng què wàn jiān dōu zuò le tǔ
宫阙万间都做了土

xīng bǎi xìng kǔ
兴，百姓苦

wáng bǎi xìng kǔ
亡，百姓苦

ほうらんつど ごと は どうい か ごと
峰巒聚うが如し、波濤怒るが如し

さん が ひょうり どうかん みち
山河の表裏潼関の路

せい と いちゆうちよ
西都を望めば意躊躇たり

しんかんけいこう
心傷ましむるは秦漢経行する処

きゆうけつばんかんすべ な
宮阙万間都て土と作る

おこ ひやくせい
興るも、百姓苦しみ

ひやくせい
亡ぶも、百姓苦しむ

一句目

ほうらん
峰巒とは山の尾根、山稜のこと。山稜はうねうねと嶺を連ね、黄河は怒濤の如く逆巻く。

二句目

潼関に通ずる山や川を乗り越えて進む道すがら。

三句目

西都は長安のこと。長安の方向を望むにつけ、気は消沈し、足は一向に進まない。

四句目

かつて秦や漢の興亡があった関中への道のりを辿るうち、何とも心が傷む。

五句目

あれほど豪華を誇った宮殿の建物はすべて土と化し、跡形もない。

六句目

王朝が興るとき、民衆は苦しむ。

七句目

王朝が亡びる時も民衆は苦しむ。

この詩は最後の二句「興，百姓苦，亡，百姓苦」（興るも、百姓苦しみ、亡ぶも、百姓苦しむ）が印象的ですね。歴史書には王朝の興亡が華々しく描かれることはあっても民衆の苦しみが記されることはない。異民族王朝に仕える身であった作者が、死の直前に至って、そのことを敢えて〈散曲〉というジャンルの中に詠い込んだ背景には一体何があったのでしょうか。植田先生は、「元王朝時代にこのような気骨のある学者がいたのは驚きです。沸々と湧き上がるエネルギーを感じる作品ですね」とこの句の印象を述べられました。



張養浩（百度百科より）

今回は、6度も皇后の座についた美女のお話である。羊献容は、あまり知られていないと思うが司馬氏の晋王朝 (AD265年～420年) の第2代皇帝・恵帝の皇后である。歴史上の人物には数奇な運命を辿った、と形容される人物が多いが彼女もその一人と言えよう。

まず時代背景を述べたい。後漢が滅びた後、魏・蜀・呉の三国時代になったがその時代に終止符を打ったのは司馬炎 (武帝・236年～290年) である。炎から晋王朝が始まるが、礎を築いたのは234年五丈原で蜀の宰相・諸葛孔明と渡り合ったあの有名な司馬仲達 (179年～251年) である。彼は魏国の武将であり政治家であったが、次々と功績をあげて大権を掌握した。その後を引き継いだ司馬昭は蜀を倒す。そして昭の子の司馬炎は、265年に主君の魏の曹奂から禅譲を受け晋王朝がスタートしたのである。司馬家は、代々尚書などの高官を輩出した名門の家柄ではあるが、仕えてきた魏の曹家が衰えて来た頃合いを見て、禅譲と言え

ば聞こえはいいが半ば強引に退位を迫ったのではなからうか。

ここで恵帝 (259年～306年) の登場である。どの王朝も3代目、4代目となると凡庸な人物が出て来るが司馬家も例外ではなかった。仲達から数えて4代目の恵帝は、色々な資料に彼は暗愚とまで書かれている。武帝・炎は、精力絶倫(?)で男だけでも26男あり、早世したものを除き王に就いたのはその内13人であった。その他叔父や従兄弟を王に就けている。かれらの中で見どころのある王がいたと思うが、凡庸な彼が2代目皇帝になったのは、次男ではあったが長男の司馬軌が夭折したためである上、楊皇后

の嫡出子であるので、早くから後継者と目されていたからである。しかし取り巻きの重臣の中には、あまりの暗愚さのため遠回しに武帝に諫言する者もいたという。恵帝は13歳の時、皇后が勧めた2歳年上の賈南風と結婚させられている。賈南風の父は車騎將軍の賈充であった。武帝は賈一族が権力を持つのを恐れて反対したが、後宮の女性に次々と手を出した武帝は皇后に頭が上がりず、この件に関しては皇后の言うとおりに従わざるを得なかった。



『百美新詠図伝』羊皇后
(ウィキペディアより)

魏は中央集権体制をとり、皇族も王に封ぜられることがあっても兵権は持たせなかった。従って魏王朝が危機に陥っても皇族はそれを救う力もなかったのだ。それを反面教師とし、司馬氏は一族に兵権を持たせ、一見したところ本家を周りの分家が守りを固めたような体制にした。ところが各地の王が一族同士で足の引っ張り合いを始めたのであるから晋王朝はまとまるはずがなかった。

恵帝は、290年に武帝が崩御した年に2代目の皇帝となった。皇后は、この時は賈南風である。彼女は子供が一人も出来なかったが前述のように賈一族は次第に権力の中核に入り込み、賈皇后が勝手に皇帝の詔を作成したりして政治を壟断していった。一族に反旗を上げそうな者がいると徹底的に粛清していった。そうした情勢が続く中で、あまりに専横がひどいので300年に趙王の司馬倫 (司馬昭の兄・司馬師の9男) が立ち上がり賈皇后を捕らえ一族を皆殺しにしたのである。賈皇后は、庶人に落とされた末毒薬を飲まされた。一方、皇后の座が空席になったので時機を見て司馬倫は尚書郎の羊玄之の娘・献容を皇后に立てた。300年11月のことである。この時美少女の誉れ高い羊献容は14

歳であり、一方の恵帝は41歳になっていた。美しい献容は気の進まない結婚であったようだ。年齢差もさることながら暗愚と言われた男であるからだ。

この司馬倫が、恵帝を支えればあるいは晋王朝のごたごたは納まったかもしれない。しかし司馬炎の死後、一族は果てしない内紛に陥っていった。290年から306年までの16年間続いた足の引っ張り合いを〈八王の乱〉と称している。恵帝が暗愚なだけに、皆自分も皇帝になる資格があると思ったのではなかろうか。301年1月、司馬倫は恵帝から皇帝の玉璽を奪い、恵帝に帝位を譲る詔を書かせた。そして恵帝は大上皇として幽閉された。勿論献容も皇太后となり、第1回目の皇后位はおおよそ2か月で終わりとなった。ところが3月には三人の王（齊王・司馬冏、成都王・司馬穎、河間王・司馬顥）が司馬倫討伐で決起し、皇帝の座から降ろした。そして幽閉先から恵帝を迎え入れ、司馬倫は処刑されたのだ。ここに恵帝と皇后献容は2回目の皇帝・皇后の座に就いた。

この時実権を握ったのは、三人の王の内、齊王の司馬冏である。他の二王は国元に帰って行った。冏は優れた人物であったが大司馬として天下の権を掌中にする、酒色に溺れ政治を怠り人事も勝手に決めて行った。この人事に対する不満が発端で、長沙王の司馬羲が中心となって司馬冏と戦った結果、司馬冏は捕らえられ一族郎党約二千人と共に殺された。司馬羲は恵帝の弟であるが洛陽の実権は彼に握られることになった。情けないことに恵帝は弟の言いなりとなってしまった。これに対して母は異なるが弟の司馬穎（成都王）と一族の司馬顥（河間王）が異議を唱え司馬羲と一戦を交えることになった。303年8月から始まった戦いは304年の正月まで続いた。その結果、勝利者となった司馬穎は丞相となり兄の恵帝を補佐し、自ら皇太弟を宣言した。そしてまたもや羊献容の皇后を廃して、金墉城に幽閉してしまった。羊献容の父は司馬倫の一味と見做されていたからである。その父もまもなく病没してしまった。

このような一族の足の引っ張り合いが延々と16年

間も続いたのである。以降の羊献容の復位と廃位の繰り返しは割愛したい。この経緯の中で羊献容は、頼りにならない夫にほとんど愛想が尽きてしまっていた。各地の王は当然のことながら強兵に務め、強兵策に利用したのが匈奴、鮮卑、羌などの北方の異民族である。その結果異民族は力を付けて華北地方はついに「五胡十六国時代」に突入して行った。晋（西晋）は316年までの首都は洛陽であったが、南（東晋）に退き首都を南京に移して細々と政権を維持した。

さて、16年間の八王の乱で最終の勝利者になったのは、東海王の司馬越であった。乱が終わったのが306年であったがこの年に恵帝も48歳で亡くなった。毒を盛られたとの噂が出るほどであった。東海王は第3代皇帝を司馬熾とした。懐帝である。当然実権はなく傀儡であった。

こうした状況下で、匈奴に劉淵という優れた指導者が現れた。彼は匈奴の首長であるが、教養は恵帝よりずっと高かった。そして304年には劉淵は皇帝と称し、国号を「漢」としたのである。匈奴が漢と代々婚姻関係を結んでいたからである。劉淵は310年に亡くなったが、その後を継いだのは甥の劉曜であった。劉曜を頭にした匈奴軍は311年に洛陽に攻め入り陥落させた。その時彼は内紛から距離を置こうと弘訓宮にひっそりと住んでいた美しい羊献容を見て、ためらうことなく自分の女とした。献容は、彼をこれまで知っている男とは異質の男性と認識したのだ。体躯はがっちり大きく、兵書を好むという文武両道の男であった。時に献容は25歳。彼女も彼を尊敬し、ようやく充実した生活が送れるようになっていった。劉曜が漢の皇帝になったのは318年で、羊献容はついに6度目の皇后になったのだ。首都もこれまでの平陽から長安に移した。そして国号の「漢」を「趙」と改めた。劉曜には多くの側室がいたが彼女を溺愛と言っていいほど愛したようだ。彼女は、三人の子供を産み皇后になった4年後、36歳という若さで他界した。短い一生であったが、晩年は幸せであったであろう。

河南省をめぐる友好提携都市(つづき)

文と写真=村上直樹

最近、竹内亮著『架橋—中国を第二の故郷にした日本人』(2022年3月、角川書店)というおもしろい本を読んだ。著者は中国在住の日本人ドキュメンタリー監督で、中国に住む日本人と、逆に日本に住む中国人を取材した『我住在这里的理由』(私がここに住む理由)というネット配信の人気番組により、中国でもとくに有名である。同書はこの番組で取り上げられた200人近い人の中から9人を選び、インタビュー等を追加して、あらためてその人物像に迫る内容となっている。トップバッターとして第1章に登場する川崎広人氏が、日本で定年を迎えたのち移り住んだ先が、河南省である。現在74歳の川崎氏は、黄河流域の新郷市原陽県官廠郷小龍固村で有機農業の普及のために孤軍奮闘しており、いわゆるインフルエンサーとしても活躍している。

この本を読んでいる内に、ふと10年ほど前のことを思い出した。私は2012年の秋、2か月ほど河南省開封市に滞在していたのだが、そこで、市内に日本人が経営しているパン屋さんがあるという話を耳にした。興味を覚えたので、店の名前を聞いて探しに行くと、道路沿いにすぐ見つかった。写真にあるJEANAVICEという店である。老板(店主)に直接会うことはできなかったが、中国人の店員に、たしかに日本人であることを確かめた。

この時は、それきりであったが、今、改めてインターネットで調べると、このパン屋さんは「開封香麦士食品有限公司」という企業が経営しており、設立され

たのは2012年4月である。さらに、この中国企業は日本の「太陽化学株式会社」の子会社である。ホームページによると日本の「太陽化学」は主に食品関連の素材を開発・生産する会社であり、1995年5月に開封市に「開封金明食品有限公司」(現・開封太陽金明食品有限公司)という合弁会社(工場)を設立し、現在では無錫、上海、天津にも進出している。そして、この「太陽化学」の本社は三重県四日市市にある。同社がなぜ中国への最初の進出先として河南省(開封市)を選択したのか、ホームページに直接の記述はないが、三重県と河南省が友好提携都市であることに関係していそうである。

今回も、かろうじて「河南」、「中原」との接点は保たれているとは言え、標題と関係のない話題から始めてしまった。友好提携関係に辿り着いたところで、ここからは標題どおり前回(3月号)のつづきに戻りたい。前々回(1月号)で見たように、河南省のいくつかの行政区は日本の地方自治体と友好都市関係を結んでいる。前回からは、それらの提携関係が結ばれた契機を、一般財団法人・自治体国際化協会(クレア)による情報等を頼りに探っている。

提携関係の4番目は、山形県南陽市と河南省南陽市によるものである。これは、一見して同じ名前の誼であろうとの想像はつく。より具体的にクレアの記述によると、1967年4月1日に、2町1村が合併してできた山形県南陽市の名称は河南省南陽市にちなんでつけられ、1984年の「中国の南陽市を訪問する会」による訪中を契機に友好関係が進展し、正式の提携に至ったそうである。友好都市提携の契機(3月号の表参照)としては、⑤都市の類似性、あるいは④市民交流によるもの、が当てはまるであろう。

では、そもそも河南省南陽市の名称の由来はどのようなものであろうか。中国語版ウィキペディア(維基百科)によると、中国のある古典に“南陽在中國之南，而居陽地，故以為名也”(南陽は中国の南にあり、陽の地に位置する。故にこの名がついた)と書かれている。ここで、陽の地とは、万物を陰・陽に分けて捉える場合、南に山があって、北に水がある地(山南水



開封市の日系パン屋さん(2012年12月)

北)は陽、逆に北に山があつて、南に水がある地(山北水南)は陰であるということを目指す。具体的に河南省南陽市は南に伏牛山があり、北には漢水(又の名を漢江、揚子江の支流)が流れている。

つづいて、福島県須賀川市と河南省洛陽市の関係である。この2都市の提携の契機は花の牡丹である。まず、洛陽市における牡丹の栽培は、1600年以上前に遡ることができると言われる。毎年4月の5日前後から1か月間、洛陽市で開催される「中国洛陽牡丹文化節(祭り)」は全国的にも非常に有名である。私は牡丹祭り自体は見学したことがないが、かなり以前(2010年)に主要会場の1つ「玉城公園」を訪れたことがある。残念ながら5月も下旬であったため、牡丹の花を見ることはできなかったが、写真は園内で撮った「牡丹仙子」の像である。清の時代に李汝珍によって書かれた長編小説『鏡花縁』における百才女の一人、陰若花は前世で「牡丹仙子」と呼ばれていた。

では、対する福島県須賀川市はどうかと言うと、同市には日本の牡丹園として全国唯一国指定の名勝・須賀川牡丹園がある。同園のホームページによると、10ヘクタールの敷地内に290種、7000株の牡丹が栽培されている。その歴史は1766年に始まり、1987年には河南省洛陽市の「牡丹仙子」像を模した「牡丹姫像」が建てられた。両都市間の提携の契機は都市の類似点に関わっており、⑤が当てはまる。

つづく4つの友好都市関係は、いずれも日本側が同じ埼玉県内の市である。因みに埼玉県自体は中国の山西省と友好都市関係にある。そのうち、さいたま市は2001年5月1日に浦和市・大宮市・与野市の3市が合併して誕生した新しい市であり、合併前の1981年に鄭州市との間で提携関係を結んだのは旧浦和市である。提携の契機についてさいたま市のホームページによると「中日友好協会」から推薦された、とあるので、分類としては②の交流団体の紹介によるもの、が当てはまるであろう。ここで、「中日友好

協会」(中国日本友好協会)とは、1963年10月4日に両国間の民間交流の促進を目的に、周恩来首相が提唱して設立された組織で、今年(2022年)50周年を迎える中日国交正常化にも多大な貢献をした。

つぎに、草加市と安陽市の関係については、クレアの記述もごくわずかであり、具体的契機については不明であるが、埼玉県および草加市の「日中友好協会」を中心に使節団の相互派遣が行われたという経緯が書かれているので、④に分類したい。

つづいて、戸田市と開封市の関係については、クレアの記述によると、1981年11月に中国河南省旅遊局の代表団が戸田市制15周年記念式典に参列し、その団員の中に開封市の王継萍氏が参加していたことから、両市の関係が進展したと書かれている。この王継萍氏がどのような人物か、インターネットでは調べられなかったが、とくに名をあげていることから、「有力者」ではないかと勝手に想像し、契機の分類では、②有力者等の紹介によるもの、と考えることにする。

両市の関係は現在でも活発なようで、開封市人民政府の公式ホームページには、昨年2021年7月13日にも開封市の李湘豫市長と戸田市の菅原文仁市長によるオンライン会談が開かれたという記事が出た(『開封日報』の引用)。その記事によると、戸田市は開封市が結んだ最初の国際友好都市だそうである(開封市は、現在、日本の下諏訪町をはじめ、英国、米国、イスラエル、ロシア、韓国、オーストラリア、フランスの都市と友好関係を結んでいる)。また、戸田市のカバン・スポーツ用品メーカー、山和株式会社(さんわ)が2006年5月、開封市に設立した「開封山和軽工有限公司」は、河南省において国際友好都市というチャンネルを通じて設立された外資企業の最初の例である。記憶がだいぶ薄れてしまったが、私は設立間もない時期にこの会社(カバン製造工場)を直接訪問した経験がある。戸田市と開封市の関係は文化面の相互理解等に止まらず、ビジネス面にも及んでいるようである。(続く)



玉城公園の「牡丹仙子」像(2010年5月)

中国の面白い神話物語・伝奇物語(13) —湘中怨解—

顧傑

前回で「中国の面白い神話物語・伝奇物語」が12回になったことに気づきました。今までにご紹介した伝奇物語はいかがでしたか。皆様の率直なご感想を是非伺いたいと思います！

さて、今回は同じく唐の伝奇物語、唐の作家、沈^{ちん}亜^{あし}之の作品「湘中怨解」をご紹介します。タイトルの「湘中怨解」は、「湘中怨」という昔の歌の「解」、つまり説明のことです。ところが、「湘中怨」はすでに失われてしまい、今の世に残っているのは、この「解」のほうだけなのです。

「狂人日記」などで知られている中国近代の有名な作家魯迅は、「湘中怨解」を含めた沈亜之の作品を「皆以華艷之筆，叙恍惚之情，而好言仙鬼復死，尤与同时文人异趣」（作品は皆、華麗な言葉使いで、まぼろしの中にあるような感情を表現し、神仙鬼怪な雰囲気をかもし出し、当時の一般的な文人とは違う美意識が感じられる）と絶賛しています。

物語は、次のように語り始めます。

~~~~~

「湘中怨」の歌は、もともと奇怪でありながら可憐で可愛らしいものである。古来の文人の中に、このような手法を用いたものは見られない。酒や美色におぼれている人には、理解できない雰囲気だろう。

今、私は「湘中怨」の内容を説明し、記録したいと思っている。私の学生韋<sup>いごう</sup>敖は、楽府詩に優れている。私はこの「解」を作り、その本編に呼応したいと考えているのだ。

ある日、鄭<sup>てい</sup>という学生は、夜明け前に家を出て、月光を頼りに歩き、とある橋にさしかかった。と、その時、橋の下から悲し気な泣き声が聞こえて来た。鄭は気になって、その声をたどっていくと、美しい娘の処にたどり着いた。鄭が驚いて事情を聴くと、その娘は袂で顔を隠しながら話し出した。

「私は幼い時に父母を亡くし、兄に養ってもらってきました。兄が結婚すると、その兄嫁は意地が悪くて、私を虐めます。随分耐えてきましたがもうこれ以上耐えられません……。今日はここで死

のうと思うのですが、その前にいろいろ思い出して、悲しみがこみあげてきたのです。」

鄭は娘を気の毒に思い「私と一緒に来ませんか？」と誘った。

「奴隷になっても悔いはありません！」と娘は答えて、鄭と同居することになった。

彼女は、「九歌」、「招魂」、「九弁」などと言

った名作を暗記しており、名作を模倣して悲しい詩歌を作るのも巧みだった。その歌詞は華麗絶妙、誰もまねのできないような素晴らしいものだった。

彼女の作品「風光詞」は：

隆佳秀兮昭盛时，播薰绿兮淑华归。

顾室萸与处萼兮，潜重房以饰姿。

见稚态之韶羞兮，蒙长霭以为帟。

醉融光兮渺弥，迷千里兮涵涸涸。

晨陶陶兮暮熙熙。

舞婀娜之秣条兮，骋盈盈以披迟。

酡游颜兮倡蔓卉，穀流旧电兮石发髓旋。

（この歌詞の概略は、辛い仕事や雑用に追われて化粧もできず、服も買えず、好きだった舞もうまく



岳陽樓(出典:Wikipedia)

舞うことも出来ず、自慢だったきれいな髪もザラザラになってしまったとの意味です。)

鄭の貧しい生活を見て、彼女は持っていた自分の手箱の中から、五彩の錦を一部取り出して市場へ持って行き売りに出すと、大層な金額で売れ、生活に少しゆとりが出来た。

さらに何年か後、鄭は長安へ行くことにした。

それを聞くと、彼女は、

「実は、私は竜王の側女でしたが、ミスをして人間界に逃げてきました。あなたの傍で長年暮らすことが出来て幸せでしたが、そろそろ帰らなければいけない時期になりました」と泣きながら告白した。

鄭は驚いて、涙ながらに引き留めようとしたが、その願いは叶わず、彼女は、鄭の下から名残惜しそうに去って行った。

十数年後、鄭の兄はある州の長官になった。その就任の祝いに、家族親戚一同が岳陽樓に登ったが、そこからは江水が見渡せた。祝いの宴が始まったが、鄭は彼女を思い出して悲しい気持ちになり、詩に託して心の内を吐露した。

「情无垠兮荡洋洋。怀佳期兮属三湘。」

(私の思いは果てしないこの江水のようだ。あなたへの思いは、この江水に託そう)

まだ歌い終わっていないのに、遠くから大きな船影がこちらに向かってくるのが見えた。

船の中央には色鮮やかな建物があり、高さは百尺(30メートルぐらい)もあって、建物にはカーテンが張り巡らされ、その上には色とりどりの絵が描かれている。カーテンが持ち上げられて、中では雲のような、虹のような、きらびやかな衣装に身を包んだ女性たちが音楽を演奏しているのが見えた。すると、その中の一人が舞いはじめた。

美しい女性が、きらびやかな衣装で艶やかにお

どるのだが、なぜか物悲しく感じられる。良く見ると、舞っている女性は、以前鄭の処にいたあの女性だった。彼女は舞ながら歌い始めた。

青山下逆行呵沿着江边，  
湘水的波纹呵如绿裙摇曳。  
我像曲卷的荷叶呵心怀不展，  
不能跟他同归呵将去往何方？

(青い山の麓から川辺に沿って、江水の波紋のように私のスカートがたなびいている。ただ私の心はハスの葉のように絡まり合っ  
て複雑で、あなたと一緒に戻れないなら私はどこに行けばよいのでしょうか。)

舞い終わると、女性は裾を整え、遠い

ところを見つめるように佇んでいた。

鄭は我を忘れて見とれていたが、急に強い風が起こり、大波が立って、ハッと我に返ると、その船はもうどこにも見当たらなかった。

~~~~~

「湘中怨解」の物語はこれで終わりです。いかがですか。ちょっと幻想的なお話です。

原文は詩や歌が多々入っており、美しい物語ですが、その美しさを充分にお伝え出来ないのが残念です。いつか時間の許すときに、詩をじっくりと訳してみたいものです。今回は、原作の十分の一でもお伝えできればと取り組みました。気に入っていただけると嬉しいです。

「詞」というのは、わりりの「漢詩の会」で植田先生がお話していただきましたが、唐代には曲があって、その曲に当てはめて歌えるように詞を書くのが流行りました。妓楼で芸妓が歌ったり、宴会の席上で披露したりと、流行歌のようなものだったそうです。

この物語もそんな経緯で出来上がって来たものかもしれませんね。



長江 (出典:Wikipedia)

「秦皇島」をご存知ですか？……(13)

文と写真 吉光 清

秦皇島市の“市の花”は「月季」である。学名は「ロサ・キネンシス（チャイナの薔薇意味）」は貴州省、湖北省、四川省を原産地とすることに由来し、常緑低木或いは蔓性の薔薇は園芸品種として広く栽培されている。（ウイキペディア）

野生種はピンクの一重咲きであったが、花卉の数が多き品種、色が濃紅紫から黄色の品種、そして一輪咲きから数輪咲きまでと多様な薔薇が作られ、例えば、ミニチュアローズの「ヒメバラ」、緑色の花が咲く「セイカ（青花）」などを生んだ原種のようなものである。

英語名は「チャイナローズ」、和名として「月季花」の他に「長春花（キンセンカの別名でもある）」、又は「庚申薔薇（コウシンバラ）」とも呼ばれる。日本には平安時代に渡来して、藤原定家の『明月記』にもその名が登場するという。「庚申薔薇」の名称は、旧暦で約60日ごとに巡って来る凶日の「庚申」に、年に数回、開花する「四季咲き」の性質を擬えて呼ばれたと言われる。蕾や花は漢方薬としても用いられる。

市内に掲げられたスローガンには「街を緑や花で一杯にしよう」というものもあり、各所の花壇にはたくさんのお花が植えられていた。秋のある日、バスの窓から見たのは、たくさんのお花の花で作られた、お花人形ならぬ大きな龍の姿だった。

■軍区橋を渡ってバスは戴河大街を進む

22路のバス路線は聯峰山公園から軍区橋の袂まで5路のバス路線と一緒に、22路のバスは時によって、平水橋公園から海岸線に沿って連峰山公園の南を走る『西海濱路』を通り、美しい海岸風景を堪能できることがある」と聞かされた。通れないのは政府要人たちが避暑に来る別荘地の傍を通ることに関係があるということだった。しかし、9月から12月の滞在中にも、そのルートを通ったことは無く、話は本当だったのか、謎のままである。

22路のバスが広い道幅の「戴河大街」に入ると直ぐに、左側に広大な果樹園が見えて来る、と言っても、黒っぽいネットですっぽり覆われているので、何の果樹なのかは分からない。右側は散策路がある草地が続く、通路脇は花壇になっていた。花壇のお花々は蒔いた



戴河大街の脇にある公園の西遊記像(2016年10月撮影)

種が花を咲かせるというよりは、花が咲く直前に植え替えられる感じで、雑草しか生えてなかった場所が数日にして見事な花壇に変貌する。（なお、コウシンバラは移植には弱い植物のようである）。

ここから「寧海道」との交差点までの1キロ余りは、片側がそれぞれ2車線を持ち、生垣を挟んだ「輔路」（バイク用道路？）に幅広の歩道を備えた直線道路になり、遙か彼方まで見通せる。

歩道を歩いていて怖いのは、後ろを走って来る電動バイクで、音もなく近づくので、ビックリするし衝突される危険もある。輔路は結構、普通車が走っていることも多い。

右側に「河北对外经贸职业学院」の、東京ビッグサイトの小型版を思わせる建物が見えてくる。秦皇島市内にある、燕山大学を始めとする高等教育機関13施設のうちの一つであり、日本語を含む外国語の通訳や小学校教員の養成課程を持っているようである。学院の敷地を過ぎた道路脇には、何も無い、ちょっとした公園があるが、なぜか西遊記の主従の像が建っていた。説明板の類は無い。

■砂浜から「仙螺島」景区を望む

学院が建っている、戴河大街の北側は「北戴河区」、南側（海岸側）は「抚宁区」なので、道路が区を分ける境界線になっている。抚宁区側には学院と対面する形で、多くの飲食店やホテルが建っている。

学院前を過ぎて「戴河大街」のバス停で降り、現れた横断歩道で左に渡り、海岸側に移る。其処から海岸

に向かう一直線の道は「銀海道」である。左右には、行楽地らしく土産物屋と飲食店の店舗が並んでいたが、シーズン外で開いている店は一つも無かった。ただし、通りから一步横に入ると、背の高い建物が並び、森閑としている。それらはリゾートマンション、滞在型の宿泊施設、経済型の宾馆や酒店、疗养院などであった。道路に人通りは全く無かった。

やがて、海岸に並行して走る「环海路」に達すると砂浜が目の前である。环海路は両側に街路樹が続き、海側の視界が開けて、いかにも海岸通りという風情になる。砂浜を横に見ながらのドライブも快適だろうと思われた。

道路沿いにフェンスが建てられているので、実際に砂浜に立ち入りが出来る箇所は限られる。真正面に大きな駐車場があり、門前には「南戴河仙螺島」の標示があった。中国式の多層の屋根が「巻貝」を連想させる建物だが、それほど遊戯施設の趣は無い。ふと沖合を見ると特徴的な展望台を持つ小島が見えた。これが「仙螺島」であった。

そして、島の左端に建つ高い建物と、こちら側陸地には旅客運搬用として二人乗りリフトが設置されていた。筆者もスキー場のリフトに乗った経験はあるが、海面上のリフトも一段と面白そうであった。しかし、日本のスキー場でもリフトの故障で途中で吊られたままの乗客が救出される事件が起きた例もあり、海上だと救出はもっと大変だろうなどと考えた。

島内には、“度胸試し”に塔上部から横に張り出した先端まで行ける「観光塔」やゴムボートでの漂流体験、海釣り、散策などのアウトドアの遊びができる施設があるようであった。



左側のリフト発着所と「観光塔」(2016年10月撮影)



陽射しがまぶしい「天马广场」(2016年10月撮影)

■南戴河海岸の「天马广场」傍でくつろぐ

「仙螺岛游乐中心」から「洋河」河口の手前まで西に続く海岸の大部分は「南戴河旅游度假区」(抚宁区)に指定されている。

広々とした砂浜を歩いても人影はまばらで、シャワー施設を備えたレストハウスは開店休業のようであった。建物の階段に座って陽射しを避けて、休息をとった。そよ風が心地良かった。

そこから道路方向を目指して傾斜を昇ると「天马广场」があった。海水浴のシーズンならば、さぞかし人出で混雑するだろうと思った。

「洋河」の河口は戴河より幅広く、周辺は低湿地が多かったようである。戴河大街は「洋河桥」で洋河を越えると「滨海新大道」に変わる。ママチャリで少し先の「蔚蓝海岸」に着いて、風景を楽しんだことはあったが、その先に在るという「南戴河国际娱乐中心」までは行き着いたことは無かった。

この、ノンビリした原稿を書いている途中で、ロシア軍のウクライナ侵攻のニュースが入って来た。隣り合う国の一方が、国境を越えて他国を侵略する暴挙に直面させられるとは想像もしなかった。自分たちが望む利益を武力で獲得することを許したら、次々に現れるだろう模倣犯を止める手立てを失ってしまうに違いない。

パラリンピックに選手を送り込み、その裏で、戦争を起こし、非戦闘員である相手側国民に無差別攻撃を仕掛け、自国民には真実を隠し、嘘で欺き、外に向かっては白を黒と言い張る、これでは20世紀から何の教訓も得ていないではないか。ナチスの攻撃から、一丸となってレニングラードを守り抜いた国としての誇りは無いのか？ と問いたい。 (続く)

今回は、「陰暦の行事」の2回目で、4月から6月の三か月間にあるものをご紹介します。

■4月——

★寒食節（清明節の前日）と清明節（旧暦4月5日頃）

〈清明節〉二十四節気の一つで立春から数えて5番目の節気。毎年4月5日頃である。期間としてはこの日から次の節気である穀雨の前日までの約15日間である。中国においてはこの清明節は祖先のお墓にお参りし、墓とその周辺を掃除する。このため「掃墓節」とも呼ばれる。また春を迎えて郊外を散歩する日でもある。有名な「白蛇伝」で許仙と、蛇が人間に化けた白娘子が出会って恋におちたのも清明節で賑わう杭州の西湖湖畔である。清明という文字を見ると、「清明上河図」を思い起こす。これは多くの方がご存知と思うが中国・北宋（960年～1126年）の都であった開封のこの頃の賑わいを描いた絵巻である。日本にも何年か前に上野の国立博物館で展示され、多くの人々の行列ができた。私も見に行つて太鼓の形状の橋周辺を描いた額入りの写真を買ひ、部屋に飾つてある。

清明節と言えば、杜牧（803年～852年）の漢詩「清明」が有名である。

清明时节雨纷纷
路上行人欲断魂
借问酒家何处有
牧童遥指杏花村

この詩は、唐詩選にも全唐詩などにも載っていないがとてもよく知られた詩である。今年の北京冬季オリンピックの開会式は、張芸謀が24節気に相応しい漢詩をそれぞれ掲げ演出をした



清明節の記念切手、2010年（百度百科より）

のを見られた方が多いと思うが、「清明」の節気ではこの漢詩が取り上げられていた。

〈寒食節〉清明節の前日を寒食節と言い、一日中火を使わない日のことで家で煮炊きをしない日である。この風習は中国の人が介子推の死を悼んでできた。春秋時代、晋の後の「文公」となった重耳（BC696年～BC628年）の家来であった彼は、有ることがあつて母と一緒に山に隠れてしまった。立派な人物なので重耳は、隠れた山に火を掛けると出てくると思つて火を掛けて出て来るのを待ったのである。しかし彼は下山せず柳の木を抱いて焼死したとの謂れがある。後世の人々は彼の忠節と志の高さに感動し、その死を悼み続けるため火を使わない日を国民的な行事にしたのである。

彼が隠れたという山は山西省晋中市介休市にあるが、介子推の山との意味で「介山」と呼ぶようになったとか。重耳は心から悼み柳の木を切り取つて持ち帰り、木の靴を作らせ毎日眺めては「悲しきかな足下よ！」と悲嘆に暮れた。後に人々は親しい友人に手紙を送るとき、「○○足下」と書いて友情を示すようになった。以前はこの日から三日間食事の時、火を使わなかったという。

■5月——

★端午節（旧暦5月5日）



端午節の記念切手、2001年（百度百科より）

中国には、四大伝統祝日があり「端午節」はその一つである。残りの三つは、前述の「清明節」そして「春節」に「中秋節」である。確かにいずれも伝統のある素晴らしい祝日である。端午節は「端陽節」、「龍船節」とも呼ばれる。端午の「端」は初め、とか最初の意味で、「午」は5月に当たり5月の最初の午の日を節句として祝ったようであるが、後に5が重なる5月5日となった。また「午」と「五」は発音がどちらもWU(ウー)であることから端午節は5月5日となったとの説がある。旧暦なので太陽暦では、2021年のそれは6月14日、2022年の今年は6月3日となる。

端午節と言えばよく知られている節句であるが、中国の風習は戦国時代（BC475年～BC221年）の楚の国の大臣であった屈原が、楚の国の将来に絶望して汨羅江に入水自殺をしたことにより屈原の遺体を魚が傷つけないよう、また遺体を探すため船を出したことから、粽を食べる習慣や舟の競争につながったという話は多くの方がご存知と思うので詳細はここでは割愛したい。ただ資料の中には「入水したことを裏付ける資料はない」と書かれているものもある。いずれにせよ今から2千数百年前のことなので仕方がないことではある。

日本にも太陽暦の5月5日を端午の節句とし

て粽を食べたりするが、武家社会が長く続いた日本では、5月5日は武者人形を飾る男の子の節句として定着しており、前述のように中国が「屈原の供養祭」としてあるのとは異なる。ただ長崎などの「ペーロン競漕」のように地域的に舟の競争をしているところがある。これは17世紀頃から行われているようであるが、当時長崎に居住していた中国人の行う端午節の風習を見習ったものと言われている。ただし今では5月ではなく7月に行われている。

■6月以降——

★夏至と三伏

〈夏至〉24節気の一つ。広辞苑には、〈太陽が天球上で夏至点に達し、北半球の昼の最も長く、夜の最も短い時、毎年6月22日頃〉とあるが、今年（2022年）は6月21日である。

〈三伏〉夏至を起点とする、夏の最も暑い時期を表す気候の捉え方に「三伏」がある。夏至後の第3の庚（十干の七番目。かのえ、と読む）の日から10日間を「初伏」、第4の庚から10日間又は20日間を「中伏」、立秋後の最初の庚の日から10日間を「末伏」と言って、この三つを合わせて〈三伏〉という。

逆に真冬の寒い時期を表す言い方がある。それは「九」である。中日辞典で「九」のページを開くと、四つの意味が書かれているがその一つに〈冬至からの81日間を9日ずつ区切り、それぞれの9日間を「九」と呼ぶ〉と記載されている。例えば一九と言えば冬至の日から数えて初めの9日間の意味である。つまり九九までであるわけである。大連で過ごしたとき「三番目の九から四番目の九のあたりが一番寒い」と何度か聞いたことがある。今年の冬至は12月22日である。3×9=27(日)を加えると、三九は1月17日となり、そこから四九の1月24日頃が寒さの底だということになる。

以前、何度かわんりい誌上でご紹介したことのあ
る、一瀬さんと大槻さんお二人が協力して翻訳され
たお話を、再び掲載させていただきます。

以前のお話は、中国、特に東北地方の昔話や民話が
書かれた本の中からの翻訳でしたが、今回は、新中国
になってからのお話で、ちょっと雰囲気の変った
面白いお話です。

お二人の経歴は既にわんりい 264 号 (2021 年 6 月
号) で紹介していますが、共に 1929 年に戦前の大連
で生まれ終戦後混乱の中帰国さ
れた方々です。

この度新しく翻訳されたもの
が届きましたのでご紹介しま
す。題名は「宴席で屁を論ず (喝
酒論屁经)」です。封書の中にお
二人からの次のようなメモが入
っていましたので合わせてご紹介
します。

〈この「宴席で屁を論ず」は、
昔 (2009 年頃) 大連駅で求めた
月 2 回発行の雑誌「故事会 (上海
錦綉文章出版社)」の「喝酒故事
の巻」で見つけたものです。

題名などいささか品がないか
と思いますが、もしかしたらこ
のような文章の中にこそ、文革後の中国の世相があ
りのままに表現されているのではないかと思い、敢
えて翻訳をしてみました。ご一読いただければ幸い
です)

#####

趙・銭・孫・李・周・呉・鄭・王等八人の同窓生が
集まって酒を飲みました。

宴が盛り上がったところ、誰かがおならをしました。
そのにおいにみな思わず鼻をつまみ、誰だ犯人は？
とあたりを見回しました。皆冗談にお前だ、あいつだ
と言っていましたが、誰も自分だと認める者はいま
せん。

これを見たジャーナリストの趙君が大きな声で、
「誰がおならをしたか俺には分かる」
と言いました。そして酒を満たした三杯の盃を自
分の前に置き、
「もし、俺が間違えたら、罰にこの三杯を飲み干す。
俺が言い当てたら、皆それぞれ一杯ずつ飲むことに
しようじゃないか」

と言いました。これを聞いた銭君が、
「もったいぶるなよ、指される前の自白だろう？罰
に三杯飲め」

趙君は手を振って、
「俺じゃないよ。絶対俺じゃ
ない。もし俺ならこの倍でも飲
む」

こんなやり取りの末に、皆は
趙君の意見に従うことにしま
した。すると趙君がやおら孫君
の方を向いて自信たっぷりに
言いました。

「孫經理さん、降参しなさい」
皆がまだ何も言わないうち
に、凶星を指された孫君は子供
のように舌を出し、おどけ顔で
言いました。

「お前には敵わないよ」

拍手喝采が起こり、皆それぞれ約束通り大人しく
一杯ずつ飲み干しました。銭君が趙君をからかうよ
うに言いました。

「君は“盲の猫が死んだネズミを捕まえた”(まぐれ
あたり) までのことだろう？」

ところが趙君は本気になって、
「違うよ。これは正真正銘、緻密な分析と判断の結
果なんだ」

銭君は信じようとしません。
「嘘つけ、じゃどう分析、判断したんだ？」
「嘘なんかつくもんか。これは俺の職業意識と係わ
りがある。ジャーナリストともなると、生活のいろい



「故事会」喝酒故事の巻より

るな面に注意を払うようになる。些細なことから物の本質を見抜くんだ。

たとえばその家の電話番号や車のナンバーを見れば、こいつは能力のある奴か、どんな地位についているか、どのくらい財産をためているか、聞かなくても分かる。たとえば番号の末尾に“^{リウ}6”、あるいは“^パ8”がついているのは、間違いなく権力のある奴、あるいは金持ちだ。6(流)は滞りがないことを表す数字、8は末広がりや縁起の良い数字で、人々は皆こうした数字を欲しがりますが、しかし、こうした数字は多くない。そこで権威のある人、金のある人に贈られるか、あるいは彼らが金で買って行く。一般人は縁起なんかを担いで、それに金をかける余裕はない。そうだろう？

正月、祭日に訪問客が多いか少ないか、祝日の贈り物がどれだけ送り届けられるか、それを見てもその人の権力は一目瞭然だ。

また車の乗り降りの動作からも、一目で彼が重要な人物かどうか判断できる。国の役人、特に高官は悠然と車に乗り、降りると周囲には目をくれず、大手を振って立ち去る。一般の幹部が車に乗る時は、あわてて一分一秒を争う。動作が遅いと運転手に文句を言われるからだ。車から降りるときも運転手に一声かけて、それから降りる。それが後日運転手の乗車拒否に遭わないための予防法なんだ。

また一家の生活がよいか悪いかは、その家に入っで見なくても、捨てたごみを見ればわかる。例えば一枚の宋人画に、早朝宮殿の入り口にごみを捨てに行く宮仕えの女が画かれているとする。彼女が捨てるごみは皆高級料理の残飯や、高級果実荔枝、桂^{レイシ}円、あるいは鴨の足などの殻ばかり。灯りも見えず、笙の音も聞こえないが、宮中生活が如何に豪華贅沢であるかをまともに語っているのだ」

ここまで立て続けにしゃべると趙君は一口水を飲みました。おしゃべりは聞く方も話す方も楽しく、皆興に入っています。趙君は続けます。

「ところで私が、どうしておならは孫君がしたのだと分かったか、それは我々八人の中で、唯一孫君が役人だからだ」

「あ、分かった。役人になるとおならでさえもいい香り？」

と、呉君が混ぜ返します。

「いや、違う。まるきり反対だ。孫君のおならは一般人の人よりずっと臭い。それは彼ら役人が魚や、肉、山海の珍味をたらふく食べているからだ。昔は“おならは五穀から発するものだ”と言っていたが、孫君のような役人には適用しない。

また孫君のおならの音も一般人とは違う。一般人はストレートにものを言い、おならもストレートに出す。放屁をすればさっぱりとして気分もいい。でも孫君のような役人は、あれこれと考えを巡らすので、腹の中も複雑だ。言いたいことははっきり言わず、おならさえきまり悪げに細く長く、腹を空かせた子ネズミが悲惨な声を上げているようだ」

趙君が言い終ると、皆おなかを抱えて笑い転げました。孫君も自分が笑われているのだと分かっているながら、一緒になって笑い、趙君を指して、

「“犬の口から象牙は生えない”と言うが、全くだ。俺のおならひとつでこれだけの馬鹿話が出るとは！お前らしいよ！」

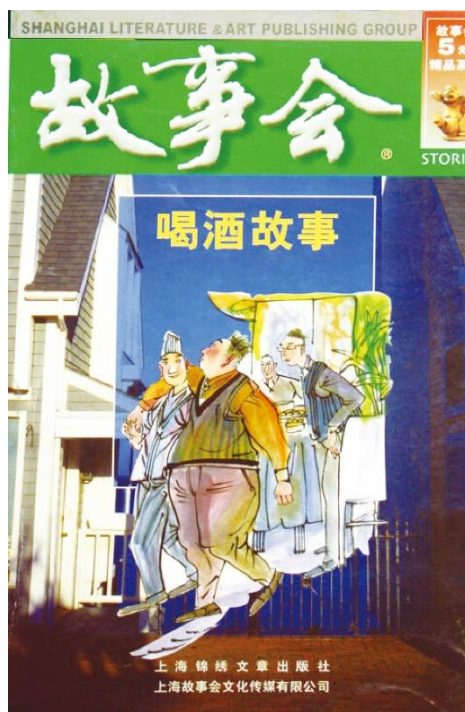
皆はまた飲みはじめました。数杯重ねたのち、鄭君が趙君に言いました。

「記者先生、今日は我々のうち役人は孫君一人で、君はすぐ言い当てたが、八人とも役人だったら、どうする？」

趙さんはゴックンと盃を飲み干して、

「それはたやすいこと。誰が清官(潔白な役人)で、誰が貪官(欲の深い役人)か見ればすぐ分かる。清官は普通の人と同じ。けれども貪官は…」

趙君はここで言葉を止めました。皆またまた大笑いです。(朱先貴)



雑誌「故事会」月2回刊行(喝酒故事の巻表紙)

▼会費納入のお願い

4月になって、桜の花も満開になり、“わんりい”も新年度を迎えます。

わんりいは、会員の皆様から1800円の会費をいただいて運営しています。大半は2月と8月を除く年10回、会報を印刷し発送する費用に充てています。会費の納入をお願い致したく、4月号に、郵便振替用紙を同封致しますのでよろしくお願い致します。6月末までにお手続きいただけると幸甚です。

昨今は郵便振替の料金も高くなっていて、皆さまにご負担いただくのを心苦しく思います。ボイストレーニングや漢詩の会などにご参加いただく方は、その折にお支払ください。また、郵貯口座をお持ちの方は、郵貯ダイレクトを利用すれば、無料でのお振込みも可能です。

どうぞ宜しくお願い致します。

【中国の笑い話-49】「365夜笑話」より

第170話 飯粒はレンコンの穴に

患者が病院で、診察を受けながら言いました：「先生、食事は沢山食べるのですが、何時も空腹感があるんです。どこか具合が悪いのでしょうか？」

医者：「いつもどんなものを食べていますか？」

患者：「よく食べるのはレンコンです。」

医者：「ハハァン、それだ！ わかりましたよ。あなたが食べたご飯は、みんなレンコンの穴に入ってしまうから、お腹がいっぱいにならないんですよ。」



第30回国際・オルガン・フェスティバル・イン・ジャパン 2022

パイプオルガン エルンスト・エーリッヒ・シュテンダー(ドイツ リューベック)

現在世界オルガン界の第一人者「Dr.シュテンダー教授」による最高の演奏をあなたに！

演奏予定曲：D.プクステフーデ「バッサカリア ニ短調 BuxWV 161」

J.S.バッハ「バッサカリア ハ短調 BWV582」「トッカータとフーガ ニ短調 BWV565」他

§ 神奈川県民ホール(小ホール)

横浜市中区山下町 3-1

○6月2日(木)18:30開演(18:00会場)

○入場料:5000円(全席自由 税込)

§ 東京カテドラル関口教会 聖マリア大聖堂

東京都文京区関口 3-16-15

○6月8日(水)19:00開演(18:30開場)

○入場料:6000円(全席自由 税込)

★チケット申込み:☎044-981-6171or 090-2769-7855 山田賀世

※会員割引あります。問い合わせ・申し込みは山田(上記)まで！

◎主催：国際・オルガン・フェスティバル・イン・ジャパン組織委員会

◎後援：外務省/文化庁/ドイツ連邦共和国大使館/NHK/朝日新聞社/産経新聞社/日本経済新聞社/毎日新聞社



時々わりいにも面白いお話を寄せてくださる和田宏さんが、別に属していらっしゃるサークルのお仲間に、近況をメールしておられます。ちょっと興味深いお話なので、わりいにも転載させていただきました。

☆聖パトリックデーのパレード

和田 宏

昨日（2022年3月12日）14時から、横浜元町の商店街で『聖パトリック・デー・パレード』が3年ぶりにあったので、和田は、それを見物して来ました。

色々なブラスバンドやバトントワリング、踊りや歌が大道で披露され、緑色の服や帽子をかぶった日本人、イギリス人、アイルランド人、中国人などで、町はごった返しました。ほかの見物人と英語と中国語で言葉を交わしました。和田は、緑色のクローバーをマスクに付けて見物しました。

先頭のブラスバンドは、アイルランド共和国の国歌を演奏しながら進みました。その時、撮った写真を添付しました。和田は、中世イギリスで一時共和国を創ったオリヴァー・クロムウェルが好きでしたが、そのクロムウェルがアイルランドに乗り込んで、大勢のアイルランド人を殺戮したので、申し訳なく思い、罪滅ぼしに見に行ったのです（笑）。無心に行進する幼い子供を見て、この子らのために戦争をしてはならないと、思わず涙しました。すぐ傍の中華街は覗きませんでした。

聖パトリックデー（St. Patrick's Day）とは、3月17日アイルランドにキリスト教を広めた聖パトリックの命日で、その功績を称え、アイルランドの伝統文化を祝うイベントです。アイルランドを始めとして、アメリカ、イギリス、カナダ、ニュージーランドなど多くの国で開催。聖パトリックデーのイベントでは、緑色の洋服や帽子、ビールや料理などで街中が緑一色に染まります。これはアイルランドがその美しい緑の風景にちなんで、「エメラルドの島」と呼ばれていることに由来しています。世界各地で開催の「セントパトリックデー・パレード」を通して、緑色のモチーフを身にまとい、



平和への思いを込めて一丸となる日が、元町にも訪れます。横浜元町ショッピングストリートでは、アイリッシュミュージック&ダンス、そして個性溢れる各参加団体のパレードが行われ、多くの見物人でにぎわいます。

満伯画伯の【水墨画教室】 淵野辺教室

●時間 第2・第4土曜日 午後2時～4時

●場所 大野北公民館

住所 相模原市中央区鹿沼台1丁目10番20
JR 横浜線淵野辺駅南口徒歩1分

（駐車可、無料）

●体験費 2800円

（わりい会員は特別割引で2000円）

●問合せ 満伯先生 080-5017-9518

◇満伯画伯の漢訳俳句◇

今月は春を代表する与謝蕪村の一句

菜の花や月は東に日は西に

cài huā tián yuǎn dōng xuán yuè
菜花田远东悬月
rì luò xī fāng tiān dì lián
日落西方天地连

【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター！！

*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術工芸室
- 日時：4月26日(火) 10:00~11:30
5月24日(火) 10:00~11:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

### \*\*\* 中国語で読む 漢詩の会 \*\*\*

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：4月 3日(日)10:00~11:30  
5月22日(日)10:00~11:30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)  
Email:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp

(有為楠)



### ■4月・5月定例会 代表宅

- ▼4月 7日(木)13:45~
- ▼5月12日(木)13:45~

### ■'わんりい' 発送 三輪センター

- ▼5月号：4月30日(土)10:00~
- ▼6月号：未定

## ☆☆ 編集後記 ☆☆

今年のお花見は、もうお済みですか？今頃久しぶりの人に会うと、ついこんな言葉をかけてしまいます。今年は寒の明けた頃から、異常な寒さが続き、桜の開花も遅れるかと思いましたが、その後、予想を超える高温の日々が続き、結局、ここ数年来の「例年通りの開花」に落ち着きました。

4~50年前、桜は入学・進学を祝う花でしたが、最近では卒業の別れを惜しむ気持ちに寄り添って散る花になってしまいました。それだけ地球の温暖化が進んだということでしょう。先行きが心配です。

それでも、昨今の世界情勢を見ると、温暖化でも何でも、地球が破壊されずに残ればそれでよしと思わなければならないのか、と悲観的になります。

~.~.~.~.~.~.~.~.~.~

'わんりい'は、新入会をいつでも歓迎します

年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい  
10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■問合せ：044-986-4195 (寺西)

## 'わんりい' 272号の主な目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| 寺子屋・四字成語(51)『黔驢の技』     | 2  |
| 「日译诗词」(21)李商隱『夜雨に寄す』   | 3  |
| 「漢詩の会」だより(56)          | 4  |
| 中国の歴史を彩る美人百花(12)「羊献容」  | 6  |
| 「中原」雑感(20)河南省を回る友好提携都市 | 8  |
| 中国の面白い神話・伝奇物語(13)湘中怨解  | 10 |
| 「秦皇島」を御存知ですか(13)       | 12 |
| 中国・陰暦の行事               | 14 |
| 「故事会」より『宴席で屁を論ず』       | 16 |
| みんなの広場                 | 18 |
| 'わんりい'の催し・お知らせ         | 20 |